

斑点米カメムシ類が急増

～ 防除対策を確実に行ってください ～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

7月5半旬（穂ばらみ期）に行った巡回調査（100地点）における畦畔での斑点米カメムシ類のすくい取り数は4.2頭（平成2.9頭）で多く、発生地点率は30%（平成39%）でやや低かった。そのうち、アカスジカスミカメは2.5頭（平成0.9頭）で多く、発生地点率は17%（平成9%）が高かった。同様にアカヒゲホソミドリカスミカメは1.7頭（平成1.6頭）で平成並、発生地点率は24%（平成32%）でやや低かった（表-1、図-1）。

同調査における本田での斑点米カメムシ類のすくい取り数は0.6頭（平成0.3頭）でやや多く、発生地点率は25%（平成11%）が高かった。そのうち、アカスジカスミカメは0.2頭（平成0.2頭）で平成並、発生地点率は11%（平成4%）が高かった。同様にアカヒゲホソミドリカスミカメは0.3頭（平成0.1頭）で多く、発生地点率は15%（平成7%）が高かった（表-2、図-2）。

予察灯における誘殺数は7月3半旬以降急増し、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメのいずれも多い（図-3、4）。

以上のことから、イネ出穂後の水田内で斑点米カメムシ類の発生量が多くなると予想される。

2. 防除対策

- 1) 出穂期（ほ場全体の40～50%が出穂した日）の把握に努め、出穂期10日後頃にスタークル剤又はアルバリン剤の茎葉散布剤を畦畔を含めたほ場全体に散布する。
- 2) 出穂期10日後頃の茎葉散布剤の散布当日から7日後までに畦畔や農道の草刈りを行う。
- 3) 水田内に出穂したノビエやホタルイ類等が発生しているほ場、イネ科雑草が主体の牧草地や休耕田等の発生源に隣接しているほ場では、出穂期10日後頃に加えて同24日後頃にもキラップ剤の茎葉散布剤を散布する。

3. その他

- 1) 殺虫剤を散布する際には養蜂業者等と連携をとり、ミツバチ等への危害防止に努める。
- 2) 蜂場が近接している場合はミツバチが水田に飛来してくることがあるため、ミツバチの活動が最も盛んな時間帯（午前8～12時）の農薬散布を避け、できるだけ早朝又は夕刻に散布する。

4. 資料

表-1 畦畔での斑点米カメムシ類すくい取り結果(7月5半旬)

	斑点米カメムシ類		アカスジカスミカメ		アカヒゲホソミドリカスミカメ	
	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)
2015	4.2	30	2.5	17	1.7	24
平成	2.9	39	0.9	9	1.6	32
概評	多	やや少	多	多	並	やや少

表-2 本田での斑点米カメムシ類すくい取り結果(7月5半旬)

	斑点米カメムシ類		アカスジカスミカメ		アカヒゲホソミドリカスミカメ	
	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)
2015	0.6	25	0.2	11	0.3	15
平成	0.3	11	0.2	4	0.1	7
概評	やや多	多	並	多	多	多

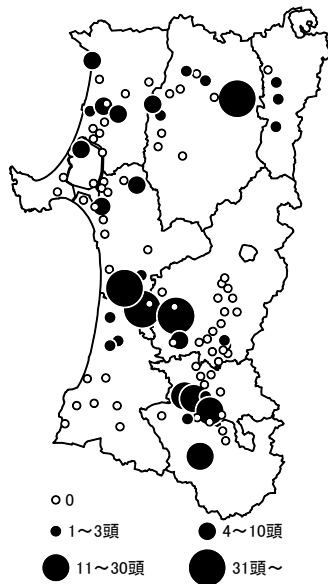


図-1 巡回調査における畦畔での斑点
米カメムシ類のすくい取り数
(7月5半旬調査)

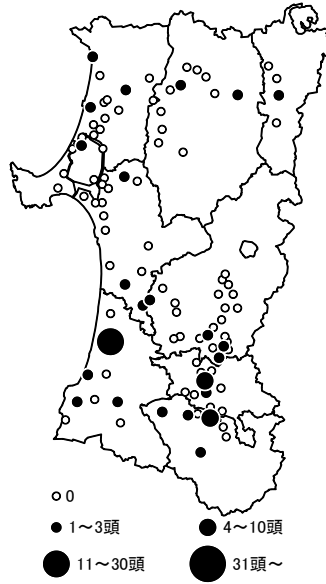


図-2 巡回調査における本田での斑点
米カメムシ類のすくい取り数
(7月5半旬調査)

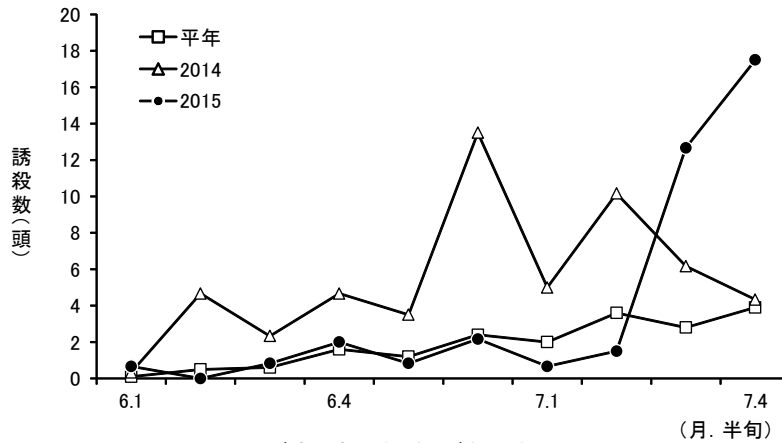


図-3 予察灯におけるアカスジカスミカメの
誘殺数(県内6予察灯の平均値)

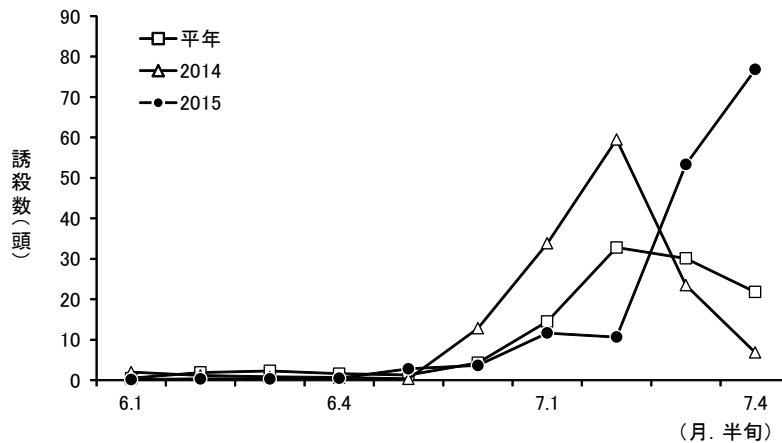


図-4 予察灯におけるアカヒゲホソドリカスミカメ
の誘殺数(県内6予察灯の平均値)

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所

TEL 018-881-3660

秋田県農業試験場

TEL 018-881-3326

掲載HP <http://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>